



# ベジシャス第3号 フォトクリップ

@伊藤農園

2011年2月15日

伊藤農園

神奈川県三浦市初声町

神奈川県三浦市は春キャベツの大産地。一面にキャベツ畑が広がります。



取材した2月下旬は、ちょうど、冬キャベツから春キャベツへの移行の時期。  
4月いっぱいが一番美味しい時期。

伊藤農園の伊藤さん（40歳）  
三浦の地で400年続く伊藤家。  
先祖代々受け継がれてきた農法を伝承しつつ、新しい品種の栽培にも積極的に取り組んでいます。  
栽培して出荷するだけでなく、自ら店頭にも立ちます。



米のワラを何層にも重ね、微生物の力を借りて作った苗床は冬場でも20度以上になります。



堆肥生産マシンの業者から利用委託され、  
循環型農業にも挑戦しています。  
廃棄する野菜と米ぬか、椀の葉、を入れて発酵させます。  
完熟堆肥完成まで、わずか14時間です。

できた堆肥は先祖から受け継いだ  
みかん畑へ還元します。



硬くしまっている冬キャベツと  
ふわふわと柔らかい春キャベツ。  
出荷用の箱のサイズも違い  
春キャベツ用の方がやや大きめです。



みごとな三浦だいこん！ 青首と比較すると大きさは歴然。



食育のために専用圃場を整備し、様々な野菜を栽培している。  
横浜市内の小学生や中華街の学校に通う子供たちが伊藤農園に勉強に来ます。



三浦の地で400年続く土地を守っていきたい。  
栽培品種は無限に広がる。  
「一生懸命頑張った分、野菜が返してくれる」  
伊藤さんは、チャレンジし続けます。

← キャベツだけでもこんなに種類があります！



先代が愛してやまなかった、手のひらサイズのかぼちゃ「ブッチーニ」 →

栽培面積を拡大した矢先に亡くなった先代の思いを受け継ぎ、今では伊藤農園の代名詞になっています。

レシピ撮影の現場は、  
いつも時間との戦いです。  
時間短縮にはキッチンばさみが大活躍！



20センチ程度の結球キャベツなら  
葉っぱ1枚でOKですよ！

バックナンバーも協議会サイトに掲載しています。

ぜひ、お試しください！

[http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01\\_000076.html](http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000076.html)